学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら THE TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
12 月 26 日号

児童会：誰もが楽しい笠原小学校を創りあげていくために、思いやり・ルールを大切にしよう

深く思いやるということ

校長　鈴木　稔朗

強い寒波の到来で、身を切るように寒い日が続きます。しかし、笠原小学校では、校舎内でも、グラウンドでも、寒さをものともしない子どもたちの笑顔が輝いています。3年生のTR 君はいつも半袖半ズボン。遠い昭和の「子どもは風の子」という言葉が思い出されます。縄跳び、一輪車、多くの子が「今できないことができるようになる」ことをめざして取り組んでいます。前跳びがまだおぼつかなかった1年生が、すぐ横で、二重跳びを軽々とこなす4年生を見て、負けじと頑張り、みるみる上手になっていきます。3年生 TT 君は何度転んでもあきらめず一輪車に挑戦。前日まで5こぎがやっとだったのが、その日いきなり 10 メートル以上の一人旅を達成。祝福する仲間や本人の笑顔は、寒さを忘れるほどの温かさでした。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

下の文章は、けがで右腕が動かせない A 君を気づかい、身の回りの様々なことについて彼を支えている B さんの気付きと決意です。右腕は絶対安静。人混みで誰かの体と腕が触れるだけで、けがが更に悪化する怖れがある。そういう状況を踏まえて、B さんは余計に多くのことを手伝おうとしていました。

（前略）今日、いつものようにフォークを入れる入れ物を取り入れようとすると、A 君はつぶやくように「じぶんでやりたい」と言った。
その言葉を聞いて私ははっとした。今まで、A 君を気づかい、やればいいと思うことをやった。しかし何か一つでも「やるよ」ではなく「手伝おうか」と聞けただろうか。もしかしたら途中から A 君の中で「やって」から「手伝って」と思いが変わっていたかも知れない。そう考えると私の行動は十分だったか。いいや、不十分だった。確かに「やってあげる」でもいいと思う。でも一番大切なことは本人の意思だ。どの行動が一番いいか考えた。「手伝う」。そうだ、これがいいと分かった。（中略）A 君は、ナフキンはたためない。これは私がやる。しかし袋にしまうことはできる。私は袋をできるだけ広げ、入れ終わるのを待つ。ジッパーに入れるのも、リュックに入れるのも同じようにした。（以下略）

その人の困り感を思いやり、よかれと思って行動することが、いつもその人のニーズとかみ合うとは限らない。その人の意思とかけ離れていると、せっかくの善意もかえってその人の尊厳を傷つけることになりかねない。でも、だからといって手をさしのべることをやめてしまうのはちがう。いったいどうしたらいいのだろう。

医療や福祉、介護の現場の専門家でさえ、日々の業務の中で、きっと幾度となく直面されるであろう、この難しい問いに対し、彼女が見つけた答えは「してあげる」ではなく「手伝う」こと、「本人の思いを大切にして、それを踏まえて適した行動を取る」ことでした。

笠原小の子どもたちは、一人一人が細やかな優しさのアンテナを、思いやりの心をもっています。そうして誰かが困っているのを察知したら、ためらいなくその人に善意を届けます。さっと寄り添い、気遣い、した方がいい行動をとることができます。そのとき、より深く相手を思いやることで、自分が考える「した方がいい行動」が、一層その人に温もりを届けることになる。B さんの気付きも、笠原小の日々の営みの中で磨かれた、全員の宝物です。

保護者、地域の皆様のご理解とご支援のおかげで、今年も、子どもたちの心の宝物が優しく輝く日々を送ることができました。心より厚くお礼申し上げます。明日から長い冬休みですが、私たちの心が子どもたちから離れることは片時もありません。不安はいつなりとお知らせください。明年もよろしくお願いいたします。どうかよいお年をお迎えください。